環境健康研究分野（総合）

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○研究分野、研究プログラムともに、適切に策定された計画（ロードマップ）にしたがって順調に進捗しているものと判断される。[事後] ○曝露係数のハンドブック・データベースの構築など、最終年度にふさわしいとりまとめがされている。[年度] ○「子どもの健康と環境に関する全国調査」をはじめ、意欲的な研究に取り組んでおり、全体にレベルの高い研究を牽引している。[事後] ○疫学的研究から見て、実験的研究の位置付けが見えにくい。[年度]
今後への期待など
○研究分野やプログラム研究の成果が、一部、エコチル研究に利用されるようになったことは評価されます。両者の連携が進むことを期待します。[年度] ○質の高い研究がなされているが、少人数なので、環境リスクセンターとの連携を進めるなど、第 4 期では体制や研究内容を再検討する必要があると思います。[事後]

主要意見に対する国環研の考え方
①今後も環境健康研究分野として必要な研究を進捗させるよう努めます。 ②ハンドブック・データベースの構築に関しては引き続き進めてまいります。 ③各個人がアクティビティを保てる環境づくりに留意し、レベルの高い研究を牽引するよう引き続き努力してまいります。 ④環境研究の中心的機関として、環境健康研究分野の課題に関する疫学的研究と実験的研究の両面からのアプローチが必要であり、例えば長期間を要する継世代影響の解明のための実験的研究なども大学等では困難である国研ならではの研究と思います。国研ならではという成果を発信できるよう努めます。 ⑤研究分野やプログラム研究がエコチルの推進に役立つ研究成果を出せるよう連携を進めたいと思います。また今後エコチルの成果を受けて、より連携を深めることができると思います。 ⑥第 4 期では環境リスクセンターとの連携を図り、体制の再編を行います。